

アクティブラーニングの効果検証 －最終年の報告－

司会・趣旨:

- ◆溝上慎一（京都大学） 9:30-9:40

話題提供者:

- ◆三保紀裕（京都学園大学） 9:40-10:05（25分）
「プレ・ポスト調査からみたアクティブラーニング－3年間の調査結果のまとめ－」
- ◆山田嘉徳（大阪産業大学） 10:05-10:30（25分）
「アクティブラーニングの効果に寄与する要因の質的検討
－アクティブラーニング型授業を展開する教員へのインタビュー調査から－」
- ◆山田邦雅（北海道大学） 10:30-10:55（25分）
「グループ学習におけるフリーライダーの弁別と他者への影響」
- ◆長澤多代（三重大学） 10:55-11:20（25分）
「アクティブラーニング型授業における教室外学修の実態
－山口大学におけるアクションリサーチをもとに－」

自由討論&総括 11:20-12:00（40分）

今日の報告者のスライドは「明日」溝上ウェブサイトにてPDFをアップします

講義型授業からアクティブラーニング型授業へ



講義＋講義



演習

Seminar/Tutorial

講義＋アクティブラーニング(AL) = **アクティブラーニング型授業**

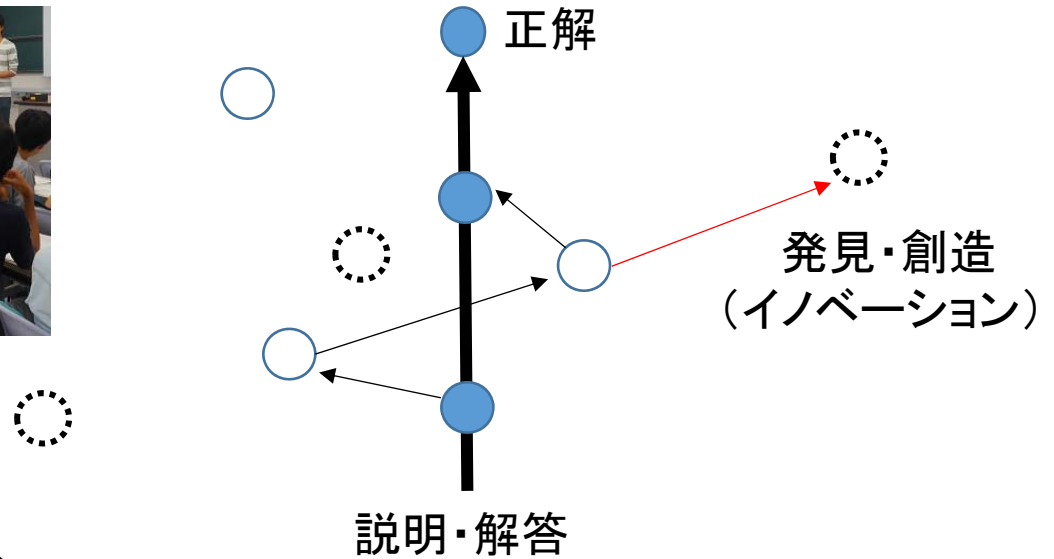
(聴く) (書く・話す・発表する)

(認知プロセスの外化: 知覚・記憶・言語・思考など)

傘概念(umbrella term)

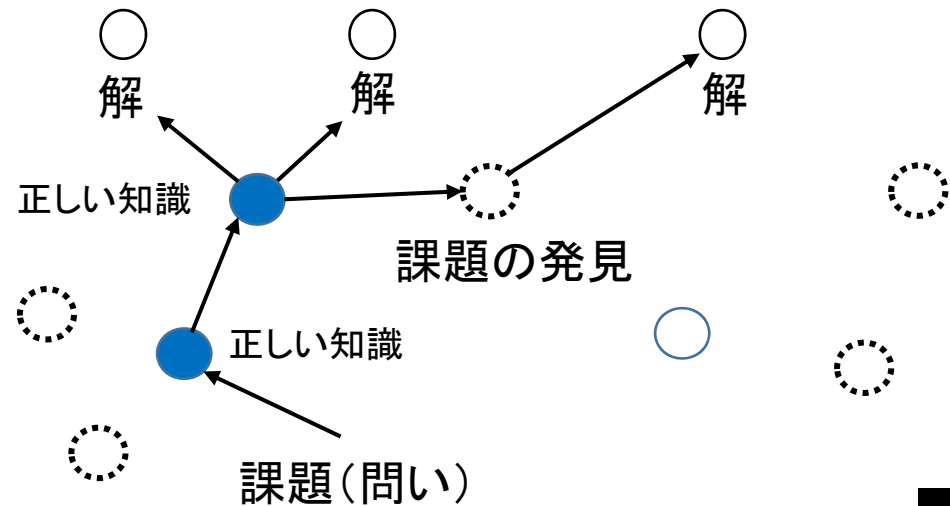
including 協同学習、ジグソー法、PBL、LTD話し合い学習法など

外化(表現)の観点から見たALの意義

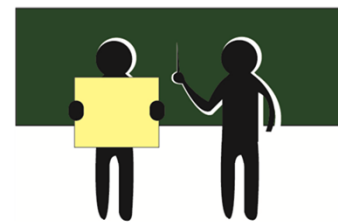


思考とは

論理的・創造的・批判的思考、推論、
判断、問題解決、意思決定など



アクティブラーニング型授業の分類

授業の形態・類型		授業の特徴	
伝統的授業	講義型	教師から学生への一方向的な知識伝達型講義。教師主導。	
	講義中心型	話す・発表するといった活動はなく、コメントシート等を用いた教師－学生の双方向性を実現する講義中心の授業。教師主導。	
アクティブラーニング型授業	習得型 講義 + AL型	教師主導であるが、講義だけでなく、学生の書く・話す・発表する等の活動もある授業。	
	探究型 AL中心型	徹底的に学習パラダイムに基づいた学生主導の授業。	

活用

アクティブラーニングの効果検証 －最終年の報告－

司会・趣旨:

◆溝上慎一(京都大学) 9:30-9:40

話題提供者:

◆三保紀裕(京都学園大学) 9:40-10:05(25分)

「プレ・ポスト調査からみたアクティブラーニング－3年間の調査結果のまとめ－」

◆山田嘉徳(大阪産業大学) 10:05-10:30(25分)

「アクティブラーニングの効果に寄与する要因の質的検討

－アクティブラーニング型授業を展開する教員へのインタビュー調査から－」

◆山田邦雅(北海道大学) 10:30-10:55(25分)

「グループ学習におけるフリーライダーの弁別と他者への影響」

◆長澤多代(三重大学) 10:55-11:20(25分)

「アクティブラーニング型授業における教室外学修の実態

－山口大学におけるアクションリサーチをもとに－」

自由討論&総括 11:20-12:00(40分)

まとめと今後の課題

* 全体の統括: 溝上・森

- 教育効果の指標の開発(三保・本田・紺田)
 - ✓ AL外化尺度(協働場面を設定して内化まで)
 - ✓ 成績は(現段階では)教育効果にそう簡単に結び付かない。成績に結び付くようにALをおこなうというのが現実課題となる。
- 量的な教育効果の検証(三保・本田・紺田)
 - ✓ 実に多様なAL型授業がありながら、総じて教育効果は認められる(三保・紺田)
 - ✓ ポイントは“予習”“AL外化”ができていること
 - ✓ (今後の作業)グループにおける他者観の検討
 - ✓ (今後の作業)習得型授業だけに限定して効果が見られるか
 - ✓ (今後の作業)予習の質、授業の形態、受講者数などを考慮した検討

- 効果に寄与するAL型授業のポイント(教師インタビュー)(山田嘉徳)
 - ✓ 授業外で深く突き詰める学習が進んだ理由
 - ・学生の情意面の促し
 - ・各回の授業の文脈に応じた関わり
 - ✓ 外化をどのように作っていったか
 - ・外化の必然性を何度も学生に説明
 - ・状況、個人差をふまえて対応 (例)グループを変える、問題の難易度を調整、ステップアップなど
 - ✓ 深い学びがなされるために
 - ・学生のレベルに合わせて課題の柔軟な設定
 - ・深く学習する構えを学生に何度も説く
 - ・学習成果に関する学生の個人差をどのように埋めるかを授業戦略とする
 - ✓ 外化の抑制要因
 - ・自身の理解を十分に作れていない、概念が形成されていないところで外化が求められる ほか

- フリーライダーの定義、弁別(山田邦雅)
 - ✓ 貢献度が低いと評価される状態。遅刻、分担やらず
 - ✓ フリーライダーの他者への影響:モチベーション低下、遅刻
 - ✓ フリーライダーとグループ数との関連は見られない
 - ✓ グループの適切な人数
 - ✓ (今後の作業)より大規模に調査してさらに知見を集める
- 「山口と授業」における授業外学修行動(長澤)
 - ✓ 質の高い授業外学習講堂を促すポイント:
 - ・教員の働きかけや熱意
 - ・グループ内のモチベーション
 - ・他のグループとの比較
 - ・提出課題がある
 - ・授業内だけでは終わらない
 - ✓ 調べ学習の質の高い情報源へのアクセスへ
 - ✓ 教室外学修でのグループワークの時間数、時間帯など
 - ✓ フォトボイスによる教室外学修:ラーニングコモンズなど設備・機器の利用
 - ✓ (今後の作業)より一般化に向けて尺度化

本課題研究にご協力いただいた大学・学部、先生方に心よりお礼を申し上げます。

2017年度の組織協力:

- 大阪府立大学/
- 山口大学
- 東京理科大学
- 京都外国語大学
- 京都光華女子大学
- 京都光華女子大学短期大学部
- 明海大学
- 愛知文教女子短期大学
- 淑徳大学
- 名桜大学

付記: 本課題研究は以下の助成を受けておこなわれています。

- 大学教育学会からの課題研究助成(H27~H29)「アクティブラーニングの効果検証」(代表者: 溝上慎一)
- 科学研究費基盤研究(B)(一般)(H28-H30)「学習成果に結実するアクティブラーニング型授業のプロセスと構造の実証的検討と理論化」(溝上慎一(代表): 課題番号16H03075)

今日の報告者のスライドは「明日」溝上ウェブサイトにてPDFをアップします

<http://http://smizok.net/>